

令和7年度 全国学力・学習状況調査 葉山町の結果について（小・中学校）

目次

葉山町教育委員会

1 調査の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 調査の方式
- (3) 集計児童・生徒及び学校数（葉山町立小・中学校関係）
- (4) 調査結果の解釈等に関する留意事項

2 小学校に関する調査結果の概要

- (1) 教科に関する調査の結果
 - ア 全体の傾向
 - イ 国語
 - ウ 算数
 - エ 理科
- (2) 児童質問紙に関する調査の結果
 - ア 学習に対する興味・関心や授業の理解度について
 - イ 挑戦心・自己有用感・幸福感等について
 - ウ ICTを活用した学習状況等について
 - エ 学校外での過ごし方について



3 中学校に関する調査結果の概要

- (1) 教科に関する調査の結果
 - ア 全体の傾向
 - イ 国語
 - ウ 数学
 - エ 理科
- (2) 生徒質問紙に関する調査の結果
 - ア 学習に対する興味・関心や授業の理解度について
 - イ 挑戦心・自己有用感・幸福感等について
 - ウ ICTを活用した学習状況等について
 - エ 学校外での過ごし方について

4 葉山町教育ビジョンに基づく学力向上に向けた葉山町の方向性

令和7年4月17日に実施した「令和7年度 全国学力・学習状況調査」について、葉山町立小・中学校の児童・生徒の学力等の状況は、概ね次のとおりです。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(出典：令和7年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領[文部科学省])

(2) 調査の方式

悉皆調査（対象は小学校第6学年、中学校第3学年）

【参考】 *平成19年度～平成21年度：悉皆調査

*平成22年度～平成24年度：抽出調査（※平成23年度は震災で中止）

*平成25年度～令和6年度：悉皆調査（※令和2年度は新型コロナウイルス感染症による臨時休校で中止）

*平成24年度から理科を追加。理科は3年に1度程度の実施。

*平成31年度（令和元年度）から英語を追加。英語は3年に1度程度の実施。

(3) 集計児童・生徒及び学校数(葉山町立小・中学校関係)

○集計児童・生徒数

※4月17日に調査を実施した児童・生徒数

公立	葉山町	神奈川県	全国
小学校	283	66,800	936,576
中学校	262	59,479	871,097

○集計学校数

※4月17日に調査を実施した公立学校数

公立	葉山町	神奈川県	全国
小学校	4	848	18,269
中学校	2	419	9,272

※児童・生徒数及び学校数ともに、小学校は特別支援学校小学部、義務教育学校(前期)、中学校は中等教育学校(前期)、特別支援学校中学部、義務教育学校(後期)を含む。

※調査の全部または一部を実施した人数・学校数。

(4) 調査結果の解釈等に関する留意事項

○本調査の結果から読み取れることに関して、次のような点に留意する必要がある。

・令和7年度の実施教科は小学校が国語、算数、理科の3教科、中学校が国語、数学、理科の3教科である。調査については、学習指導要領の全てを網羅するものではないことから、児童・生徒が身につけるべき学力の特定の一部であること。

・年度により問題の質が異なるため、学力の向上・低下の傾向を正答率のみで容易に評価することは難しいこと。

(用語説明)

○国語、算数(数学)、理科の平均正答率は、それぞれの教科の平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)

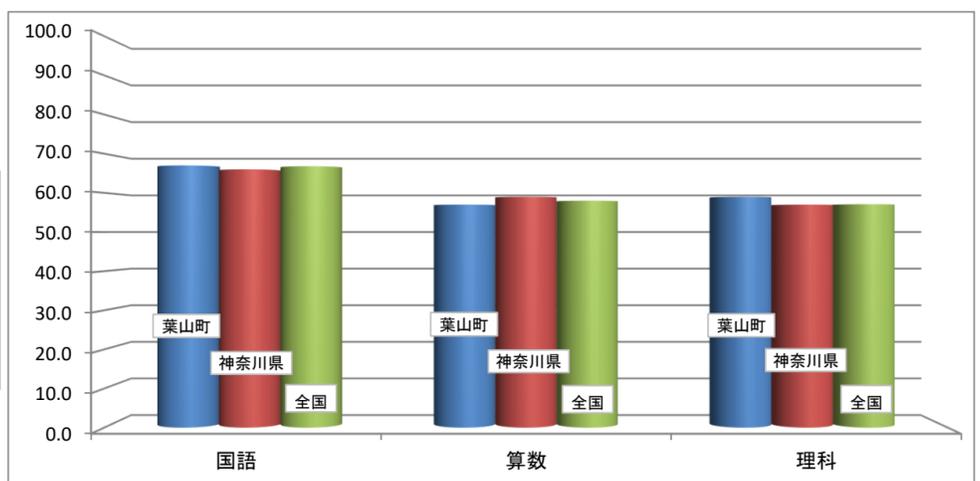
○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答した児童・生徒数を全体の児童・生徒数で割った値の百分率

2 小学校に関する調査結果の概要

ア 全体の傾向

【平均正答率 %】

	葉山町	神奈川県	全国
国語	67.0	66.0	66.8
算数	57.0	59.0	58.0
理科	59.0	57.0	57.1



- ・国語、算数、理科の調査結果ともに、全国・県の平均正答率±2ポイントの範囲内であるため、全国・県と比較してもほぼ同程度と考えられる。

イ 国語

結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」は、全国・県平均を上回っている一方、言語事項（漢字を正しく使う等）については、全国・県平均を大きく下回っている。 ・全体的に無解答率が全国・県と比較して高いことが課題である。 	
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・学年漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題では、正答率が7～13ポイント低い。文脈に合う適切な漢字を書くことに課題がある。
	情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題では、正答率が全国平均を上回っている。 ・話し合いの記録から適切なものを選択する問題であるが、無答率は低い。
	我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる問題では、全国平均を3.6ポイント上回っている。
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」のいずれの問題も、全国の平均正答率を上回っている。 ・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題では、正答率が全国平均を12.8ポイント上回っている。
	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」に関わる問題は、全国の平均正答率と同程度である。 ・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題では、正答率では全国・県平均を上回っている一方、無解答率も7.4ポイントと高い。
	読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる問題では、正答率が全国平均を5.9ポイント上回っている。 ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題では、全国平均正答率を9.3ポイント下回っている。また、無解答率が29.7%と非常に高い。

今後の取組のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」や文章全体の構成を捉える力については、全国・県平均と比較しても良好な傾向が見られ、話し合いや発表などの言語活動を重視した授業の成果が表れていると考えられる。一方で、目的に応じて文章と図表などを結び付けて必要な情報を見つける問題や、学年配当漢字を文の中で正しく使う問題については課題が見られた。また、無解答率が高い設問が複数見られることから、設問の意図を正確に捉え、条件に合った情報を選択した上で解答する力が十分に身に付いていない状況がうかがえる。文章量に関わらず、問われている内容を整理し、必要な情報を取捨選択して考えをまとめる力の育成が求められる。児童が学習に前向きに取り組み、「わかった」「できた」と実感しながら、学びを積み重ねていくためには、情報を正確に読み取り、根拠をもとに考えたり、表現したりする経験を重ね、学びの充実感を高めていくことが重要である。 <p>○ これらの課題を踏まえ、次のような取組を進めていきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学習のねらいや内容を意識しながら、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるよう、指導の工夫を図る。 ②文章や資料から必要な情報を整理し、内容を的確に捉える学習活動を充実させる。 ③学年配当漢字について、意味や使い方を理解した上で、文の中に適切に活用できるよう指導の充実を図る。 ④読み取った内容や考えたことを、言葉や文章で表現する活動を位置づけ、理解の定着と表現力の育成を図る。 ⑤児童同士が考えを交流しながら、学びを深める学習活動を通して、主体的に学習に取り組む態度を養う。
------------	--

ウ 算数

結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 「数と計算」領域では、分数の加法、数直線上での単位分数、伴って変わる二つの数量関係についての理解に課題が見られた。 「知識・理解」を問う問題は、概ね理解されていた一方、「思考・判断・表現」を問う問題については、正答率が低く課題が見られた。 全体的な傾向として、正答率に関しては、全国・県平均と比較してもほぼ同程度と考えられるが、5ポイント程度下回っている問題も見られた。
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係を式に表し計算することや、小数の加法について、数の想定的な大きさを用いて共通する単位を捉えることは、概ね理解できていた。 異分母の分数の加法の計算をする際の基礎的な考え方や、数直線上での数量関係の理解を問う問題では、全国平均程度であったが、正答率は20%程度であり、課題が見られた。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 平行四辺形を作図する問題や角の大きさについての問題は、概ね理解できていたが、台形の意味や性質の理解を問う問題の正答率は52.0%と高くなかった。 基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題では、正答率が53.2%であり、課題が見られた。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだす問題は、正答率が82.2%でありよく理解できていたが、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題では、正答率が49.8%と課題が見られた。 「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題では、正答率が39.9%と課題が見られた。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> 棒グラフから項目間の関係を読み取ったり、簡単な二次元の表から条件に合った項目を選んだりする問題は、概ね理解できていた。 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題では、正答率が24.9%と課題が見られた。
今後の取組のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 「思考・判断・表現」の観点に関する問題については、全国・県平均と比較しても概ね同程度の結果が見られ、児童が自分の考えをもとに問題解決に取り組もうとする様子がうかがえる。一方で、「知識・技能」に関わる基礎的な内容については、問題によって正答率に差が見られ、理解の定着に課題が残る状況が明らかとなった。特に、数量の関係を的確に捉えたり、その関係を式や言葉で表現したりする場面において、十分に理解が図られていないと考えられる状況が見られた。基礎的な知識・技能が不十分なままでは、思考を深めたり、自分の考えを説明したりすることが難しいことから、学習内容の土台となる部分を丁寧に積み重ねていく必要がある。児童が算数の学習に前向きに取り組む、学ぶことに対する充実感や達成感を得ながら理解を深めていくためには、基礎的な内容の確実な定着を図るとともに、数量関係を整理し、考えを表現する経験を日常の授業の中で充実させていくことが重要である。 <p>○ これらの課題を踏まえ、次のような取組を進めていきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学習内容のねらいや数量の意味を明確にし、児童が見通しをもって学習に取り組めるよう、指導の工夫を図る。 ②基礎的な知識・技能について、学習過程の中で繰り返し確認し、理解の定着を図る。 ③図や式、言葉を用いて考え方を整理する学習活動を位置づけ、数量関係を的確に捉える力の育成を図る。 ④自分の考えを表現したり、他者の考えと比較したりする活動を通して、思考を深める学習を充実させる。 ⑤児童が主体的に学習に向かい、学ぶことへの意欲を高められるよう、学習環境の工夫をおこなう。

工 理科

結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> どの領域についても、全国・県平均とほぼ同程度の正答率であるものの、問題別では正答率にばらつきが見られた。 実験結果をもとに考察する問題や、条件を変えて考える問題においては、全国平均に比べ課題が見られた。
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識は、全国・県平均の正答率と同程度であるが、正答率が8.5%で課題が見られた。 電磁石の強さが巻数によって変わることの知識は、正答率が全国・県平均を上回っているが、乾電池のつなぎ方を直列つなぎにすることで電磁石の強さが強くなる知識は、正答率が全国・県平均を下回っており、課題が見られた。
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 水の状態変化に関する知識の概念理解について、多くの問題で正答率が全国・県平均を上回っているが、水の温まり方について、まとめを導き出す際、観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することについては、正答率が48.4%と課題が見られた。
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> いずれの問題も、全国・県平均の正答率と同程度である。 発芽の条件に関する実験後、新たな問題を見だし、表現することについては、正答率が24.9%で、全国・県平均の正答率より下回っており、課題が見られた。
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、実験からまとめまでの学びの中で、結果を導いた理由を表現することについては、全国・県平均の正答率より下回っており課題が見られたが、他の条件での結果を予想して表現することについては、全国・県平均の正答率を上回っている。
今後の取組のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 各領域において、全国・県平均と概ね同程度の結果が見られ、基礎的な内容については一定の定着が図られていると考えられる。一方で、観察・実験の結果をもとに考察し、表現する問題においては、課題が見られた。これらの結果から、観察や実験の操作自体は行うことができるものの、得られた結果をもとに理由を考え、筋道を立てて説明する力が十分に育成されていないことが推測される。また、学習内容と既習事項や日常生活とのつながりを意識しながら理解を深める経験が十分でない状況も考えられる。児童が理科の学習を通して、自然の事象に関心をもち、主体的に探究する姿を育むためには、観察・実験の過程を大切にしながら、考察を重視した学習を日常的に積み重ねていくことが重要である。 ○ これらの課題を踏まえ、次のような取組を進めていきたい。 <ol style="list-style-type: none"> ①学習の目的や見通しを明確にし、児童が意欲的に観察・実験に取り組めるよう指導の工夫をおこなう。 ②観察・実験の結果を整理し、必要な情報をもとに考察する学習活動の充実を図る。 ③結果と考察を関連付けながら、自分の考えを言葉や文章で表現する活動を位置づけ、科学的に考察する力の育成を図る。 ④既習内容や日常生活との関連を意識した学習を通して、学習内容の理解を深める。 ⑤児童同士が考えを交流しながら、学びを深める学習活動を通して、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。

(2)児童質問紙に関する調査の結果

<抽出項目について>

「葉山のスクールミッション」に深く関連している項目(「学習に対する興味・関心や授業の理解度」、「挑戦心・自己有用感・幸福感等」、「ICTの活用」、「学校外での過ごし方」)に関わる設問を児童質問紙の中から抽出しています。これらの結果から、成果と課題を振り返り、今後の授業づくりに必要な視点を見出し、家庭・地域と連携しながら、さらなる充実を図ることをねらいとしています。なお、小学校から中学校への学びの連続性を考慮し、小・中共通の設問を抽出し分析しています。

ア 学習に対する興味・関心や授業の理解度について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出	小学校		
	葉山町	神奈川県	全国
① 国語の勉強は得意ですか	58.9	61.5	61.4
② 国語の勉強は好きですか	51.8	58.5	58.3
③ 国語の授業の内容はよく分かりますか	80.1	83.7	82.8
④ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.6	90.7	90.4
⑤ 算数の勉強は得意ですか	62.2	60.3	60.3
⑥ 算数の勉強は好きですか	57.0	58.7	57.9
⑦ 算数の授業の内容はよく分かりますか	78.1	78.4	78.3
⑧ 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.2	91.8	91.6
⑨ 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか	83.3	83.4	83.3
⑩ 理科の勉強は得意ですか	69.4	76.7	78.4
⑪ 理科の勉強は好きですか	70.9	79.5	80.1
⑫ 理科の授業の内容はよく分かりますか	85.2	88.7	88.9
⑬ 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	76.9	79.7	79.9
⑭ 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	26.7	30.5	30.0
⑮ 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか	57.8	62.9	63.2
⑯ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	87.2	82.5	82.3
⑰ 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	88.8	87.0	88.0
⑱ 解答時間は十分でしたか(国語) ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	50.6	70.8	73.9
⑲ 解答時間は十分でしたか(算数) ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	72.2	82.8	80.4
⑳ 解答時間は十分でしたか(理科) ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	91.1	94.3	94.1

主な特徴と考察

学習に対する興味・関心や授業の理解度に関する設問では、全国・県と比較して低い値を示す項目が複数見られた。特に、教科に対する「得意」「好き」に関する設問で差が見られ、理科ではその差が大きい傾向にあることから、学習への親しみや自信が十分に育ち切っていない児童が一定数いることがうかがえる。一方で、国語については「将来役に立つ」と捉える割合が全国・県平均を上回っており、学習の価値自体は前向きに受け止めている様子も見られる。

また、解答時間に関する設問では、国語、算数で「時間が足りない」と感じる児童の割合が高く、限られた時間の中で必要な情報を読み取り、考えをまとめて表現することに課題が残ることが考えられる。今後は、読む量や情報を取捨選択する力を段階的に育成するとともに、根拠を持って簡潔に表現する経験を積み重ね、児童が「分かる」「できる」を実感できる授業改善が必要である。

さらに、総合的な学習の時間や道徳に関する設問では、全国・県平均を上回る結果が見られることから、話し合い活動や表現活動を通して考えを深める学びは一定程度定着が図られていると考えられる。こうした強みを各教科の学習にもつなげ、学習の見通しをもたせた課題設定や、成功体験を意図的に積ませる手立てを講じることで、興味・関心と理解の双方を高めていきたい。

イ 挑戦心・自己有用感・幸福感等について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	自分には、よいところがあると思いますか	94.0	87.1	86.9
②	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	92.1	91.8	92.2
③	将来の夢や目標を持っていますか	80.1	81.9	83.1
④	人が困っているときは、進んで助けていますか	94.4	93.6	93.7
⑤	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	98.8	97.1	97.2
⑥	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	71.3	68.1	70.6
⑦	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.0	96.3	96.4
⑧	学校に行くのは楽しいと思いますか	86.0	87.1	86.5
⑨	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	76.5	79.0	78.1
⑩	友達関係に満足していますか	92.5	81.8	91.7
⑪	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか (「よくある」「ときどきある」と回答した割合)	97.6	93.4	93.0
⑫	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	83.7	81.4	81.7
⑬	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	86.5	82.6	81.3
⑭	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	82.5	72.1	78.6
⑮	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	87.7	81.1	80.3
⑯	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	83.7	78.5	77.8
⑰	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	82.9	83.2	83.4
⑱	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	86.4	85.1	84.9
⑲	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	80.9	87.9	79.4
⑳	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	84.5	82.2	82.5
㉑	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	93.2	92.0	91.9

<p>主な特徴と考察</p>	<p>自己肯定感や規範意識、学校生活における安心感に関する設問では、全国・県平均と比較して概ね良好な結果が見られた。困りごとや不安がある際に、学校にいる大人に相談できると感じている児童の割合が全国・県を上回っていることから、児童が安心して過ごせる学校環境が整いつつあることがうかがえる。</p> <p>一方で、自分と異なる意見について考えることを楽しいと感じている児童や、学習内容について、分かった点、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている児童の割合には課題が見られる。話し合い活動や学習の振り返りが、学びを深める段階まで到達できていない場面があることが考えられる。</p> <p>今後は、対話を通して多様な考えに触れることの価値を実感できる学習活動や、振り返りを次の学習に活かす視点を明確にした指導の工夫を進めていきたい。そうした取組を通して、他者の考えを受け止めながら自分の考えを深め、主体的に学び続ける力の育成を図っていく必要がある。</p>
----------------	---

ウ ICTを活用した学習状況等について

(百分率)

質問紙より抽出		小学校			
		葉山町	神奈川県	全国	
① a	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」「ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業）」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合の合計	97.6	93.1	89.7	
① b	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」「ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業）」と回答した割合の合計	70.9	56.0	46.7	
②	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。	(1) 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	80.9	82.6	81.3
		(2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	90.4	90.4	89.2
		(3) 楽しみながら学習を進めることができる	79.0	86.1	85.5
		(4) 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる	90.4	88.4	88.1
		(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	80.1	79.0	77.6
		(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	87.3	86.4	84.6
		(7) 友達と協力しながら学習を進めることができる	87.2	87.8	87.5
③	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊び目的除く） ※「1時間以上」と回答した割合の合計	21.6	19.1	19.6	

主な特徴と考察	<p>ICTの活用状況に関する設問では、授業の中で端末を活用する場面が定着しており、調べる、整理する、まとめる、発表するなど、学習の中でICT機器が日常的に活用されている様子が見えてくる。端末を学習のツールとして活用する素地は概ね整ってきていると考えられる。</p> <p>一方で、自分のペースで理解しながら学習を進められていると感じている児童や、楽しみながら学習に取り組むことができている児童については、全国・県平均と比較して低い傾向にあり、ICT活用が必ずしも個々の学習の進め方や学習意欲の向上につながっていない場面があることがうかがえる。</p> <p>今後は、ICTの特性を活かし、学習内容や進度を選択できる課題の設定や、達成感を実感できるスモールステップでの学習、振り返りを通じた学習の可視化などを進めていきたい。児童が「分かる」ことに加え、「自分のペースで」「楽しみながら」学習を進められる授業づくりを充実させ、主体的な学びの育成につなげていく必要がある。</p>
---------	--

エ 学校外での過ごし方について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	朝食を毎日食べていますか	96.1	93.9	93.7
②	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	87.0	81.0	81.9
③	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	92.8	90.7	91.0
④	学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ※「1時間以上」と回答した割合(学習塾・家庭教師・オンライン学習も含む)	48.5	55.2	54.0
⑤	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ※「1時間以上」と回答した割合(学習塾・家庭教師・オンライン学習も含む)	45.9	46.6	47.1
⑥	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書 をしますか。(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く) ※「30分以上」と回答した割合	38.7	32.2	31.1
⑦	これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか。 ※「よくしていた」「ときどきしていた」と回答した割合	90.9	81.2	80.6
⑧	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一 緒に遊んでもらったりすることがあります(習い事は除く) ※「よくある」「ときどきある」と回答した割合	50.6	38.6	39.4

主な特徴と 考察	<p>学校外での過ごし方や生活習慣に関する設問では、朝食の喫食率や起床、就寝など、基本的な生活習慣については全国・県平均と比べて概ね良好な傾向が見られ、安定した生活リズムで過ごすことができている児童が多いことがうかがえる。</p> <p>一方で、家庭での学習時間については、個人差が大きく、学習習慣の定着という点では引き続き課題が見られる。学校での学びが家庭での学習につながりにくい状況も考えられるため、家庭学習の内容や取り組み方について、より分かりやすく示していく必要がある。</p> <p>今後は、学校での学びと家庭での学びが連続するような指導の工夫を進めるとともに、家庭との連携を図りながら、望ましい生活習慣と学習習慣の形成を支援していくことが重要である。</p>
-------------	---

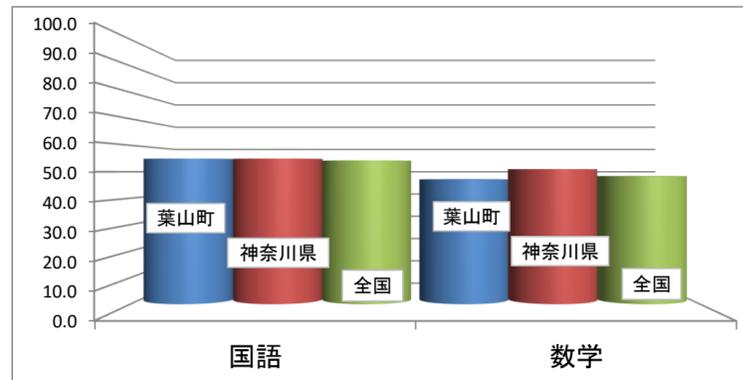
3 中学校に関する調査結果の概要

(1) 教科に関する調査の結果

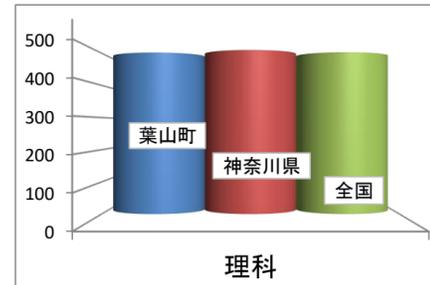
ア 全体の傾向

【平均正答率 %】

	葉山町	神奈川県	全国
国語	55.0	55.0	54.3
数学	47.0	51.0	48.3



	葉山町 平均IRTスコア	神奈川県 平均IRTスコア	全国 平均IRTスコア
理科	502	510	503



※理科はIRTスコアでの表示です。

「IRT」とは、児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。「IRTスコア」とは、IRTに基づいて500を基準にした得点で表すものです。

国語、数学の調査結果ともに、全国・県の平均正答率±5%範囲内、理科についても全国平均並みと、ほぼ同程度と考えられる。

イ 国語

結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 「目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする」、「書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考える」問題では、正答率が全国・県を5%以上上回っている。 「事象や行為を表す語彙について理解している」、「読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える」問題では、正答率が全国・県の正答率より5%以上下回っている。 「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する」、「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える」問題では、全国・県と同程度ではあるが、正答率が20%程度と課題が見られる。
知識及び技能 言葉の特徴や使い方に 関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 「文脈に即して漢字を正しく使う」問題は、全国・県と同程度ではあるが、正答率が7.3%であり課題が見られる。 「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整える」問題では、全国の正答率を8%程度下回っており、課題が見られる。
思考力、 判断力、 表現力等 話すこと・ 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 「相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する」問題は、全国の正答率を4%程度上回っている。 「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する」問題は、全国・県の正答率と同程度ではあるが、正答率が22.7%であり課題が見られる。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 「目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする」問題では5.3%、「書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考える」問題では6.5%と、ともに全国の正答率を上回っている。 「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」問題は、全国・県と同程度ではあるが、正答率が34.9%であり課題が見られる。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える」問題は、全国・県と同程度ではあるが、正答率が21.6%であり課題が見られる。

今後の取組の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて材料を整理し、伝えたいことを明確にすることや、文章の中心を明確にして構成・展開を考える点では成果が見られる一方、語彙の理解や、読み手の立場に立って語句の用法・叙述を確かめて文章を整える力に課題が見られる。加えて、文章の構成や展開を根拠をもとに捉えることや、根拠を明確にして自分の考えが伝わるように表現すること、資料や機器を用いて分かりやすく伝えることは正答率が低く、定着に向けた指導の充実が必要である。 ○ これらの課題を踏まえ、次のような取組を進めていきたい。 <ol style="list-style-type: none"> ① 説明文・論説文等で、主張－根拠－事例の関係を押さえ、叙述を根拠に内容を整理する学習活動を充実させる。 ② 書く活動では、「結論→理由→具体例」等の型を用い、根拠が伝わる文章になるよう構成を意識した記述の指導を継続しておこなう。 ③ 推敲段階では、語句の用法・漢字表記・叙述の妥当性をチェックする観点を明確にし、読み手を意識して文章を整える習慣化を図る。 ④ 発表・話し合いでは、資料（表やグラフ、引用等）の選択理由や根拠の示し方を振り返る場面を設定し、資料やICTを「伝えるためのツール」として使い分ける力を育成する。
----------------	--

ウ 数学

結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 「数と式」、「図形」、「関数」の領域全体は、全国・県の正答率と同程度である。 「データの活用」の領域全体は、全国・県の正答率より5%下回っている。「相対度数の意味の理解」に課題がある。 数学的な説明や図形の証明をする問題では、問題形式が記述式の中でも30~40%の無解答率となっており課題がある。
数と式	<ul style="list-style-type: none"> 「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する」問題は、全国の前年より8.7%上回っている。 「数量を文字を用いた式で表す」問題は、全国の前年より8.5%下回っており課題がある。 「素数の意味の理解」、「式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する」問題では、全国・県と同程度ではあるが、正答率が30%程度であり課題が見られる。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 「外角（多角形）の意味を理解する」問題は、全国・県の正答率より7.7%下回っており課題がある。 「総合的な・発展的に考え、条件を変えた場合について、照明を評価・改善する」、「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する」問題は、全国・県と同程度ではあるが、正答率が35~37%程度であり課題が見られる。
関数	<ul style="list-style-type: none"> 「一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合をもとに、x の増加量に対する y の増加量を求める」、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」問題では、全国・県と同程度ではあるが、正答率が34~40%程度であり課題が見られる。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> 「必ず起こる事柄の確率について理解する」問題は、全国・県と同程度ではあるが、正答率が78.1%程度であり理解できている。 「相対度数の意味を理解する」問題は、全国の前年より14.4%下回っており課題がある。
今後の取組のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 「数と式」、「図形」、「関数」は概ね全国・県と同程度である一方、「データの活用」は5ポイント程度下回り、特に相対度数の意味理解に課題が見られる。また、数量を文字式で表すこと、一次関数を用いて事象を解釈し説明すること、図形の性質を根拠に証明することなど、数学的に説明・証明する力に課題があり、記述式の問題において無解答率が高い点も踏まえた指導改善が必要である。 ○ これらの課題を踏まえ、次のような取組を進めていきたい。 <ol style="list-style-type: none"> ①身近な生活場面や具体的な事象を題材として、数量の関係を文字式や図、表等で表現し、それらの意味を捉えながら説明する学習活動の充実を図る。 ②相対度数については、求め方の理解にとどまらず、その意味や有効性を踏まえ、複数の資料を比較したり、結果を判断したりする場面で活用できるよう、指導内容や学習過程の工夫をおこなう。 ③一次関数を用いた学習では、表・式・グラフを相互に関連付けて事象を捉え、変化の割合の意味をもとに説明する活動を取り入れ、数学的な解釈の育成を図る。 ④図形の性質や証明に関する学習においては、条件や結論を整理し、証明の見通しをもって考える活動を段階的に設定することで、考えの過程を数学的に表現する力の向上を目指す。 ⑤問題解決の過程や結果について振り返り、他者との考えと比較・検討する場面を設定することで、数学的な見方・考え方を深める学習の充実を図る。

工 理科

結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の4領域全体では、全国平均と同程度であり、概ね平均的な結果である。 「エネルギー」を柱とする領域では、身近な現象に関する知識や技能に関する問題で高い正答率が見られる。
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 「ストローの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能」、「身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識の概念」に関する問題は、正答率が98%程度であり、定着が図られている。 「音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明する」、「電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想する」問題は、全国・県と同程度ではあるが、正答率が16～39%程度であり課題がある。
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 「疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定する」問題は、全国の正答率より4.2%、「元素を記号で表す」問題は、全国の正答率より11.7%、「化学変化の分解に関する知識の概念」を問う問題は、全国の正答率より17.8%下回っており課題がある。 「探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現する」問題は、正答率が82.4%、「気体の性質に関する知識の概念」に関する問題は、正答率が92.2%、「加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能」に関する問題は、正答率が92.8%程度であり、定着が図られている。
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 「水中生物の生命を維持する働きに関する知識」、「植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現すること」、「化学変化の分解の知識」に関する問題は、いずれも全国の正答率より下回っており課題がある。
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 全国・県と同程度ではあるが、いずれの問題も正答率が低く課題である。 「土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現する」問題は、正答率が18.7%であり課題がある。
今後の取組のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 「粒子」を柱とする領域では、課題設定や元素記号、化学変化（分解）に関する概念理解に課題が見られる一方、実験器具の操作や気体の性質等の基礎的事項は定着が図られている。「生命」を柱とする領域では、生物のはたらきや植物の構造を適切に表現する力等に課題が見られる。また「地球」を柱とする領域は全体に正答率が低く、土地の様子とボーリング調査結果を関連付けて地層の広がり表現することに大きな課題がある。さらに「エネルギー」を柱とする領域では、資料や情報の信頼性、回路（抵抗）等は定着が見られる一方、条件に着目した実験計画や結果の予想・説明に課題が見られる。 ○ これらの課題を踏まえ、次のような取組を進めていきたい。 <ol style="list-style-type: none"> ① 「粒子」領域では、現象→疑問→仮説→検証方法の流れを明確にし、課題設定を授業の中で型化して指導する。 ② 元素記号・化学変化（分解）は、実験結果やモデル図と結び付けて反復的な扱い、「用語を覚える」から「説明に使う」へと活用場面を増やしていく。 ③ 「生命」領域では、観察記録を根拠に、図・表・文章で構造やはたらきを表現させ、表現の妥当性を相互に検討する活動を取り入れる。 ④ 「エネルギー」領域では、条件（変えるもの／そろえるもの）を明確にして実験を計画し、予想→結果→解釈を言語化する探究過程を重視する。 ⑤ 基礎技能の定着が見られる領域では、結果の整理や振り返りの質を高め、次の疑問につなげる振り返り活動を継続する。

(2)生徒質問紙に関する調査の結果

<抽出項目について>

「葉山のスクールミッション」に深く関連している項目(「学習に対する興味・関心や授業の理解度」、「挑戦心・自己有用感・幸福感等」、「ICTの活用」、「学校外での過ごし方」)に関わる設問を生徒質問紙の中から抽出しています。これらの結果から、成果と課題を振り返り、今後の授業づくりに必要な視点を見出し、家庭・地域と連携しながら、さらなる充実を図ることをねらいとしています。なお、小学校から中学校への学びの連続性を考慮し、小・中共通の設問を抽出し分析しています。

ア 学習に対する興味・関心や授業の理解度について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	国語の勉強は得意ですか	55.3	52.6	51.4
②	国語の勉強は好きですか	64.1	58.6	57.9
③	国語の授業の内容はよく分かりますか	83.6	78.8	77.0
④	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.3	88.7	88.3
⑤	数学の勉強は得意ですか	47.3	47.4	46.0
⑥	数学の勉強は好きですか	62.2	55.4	53.8
⑦	数学の授業の内容はよく分かりますか	75.9	73.0	70.3
⑧	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときの役に立つと思いますか	64.1	73.1	75.2
⑨	数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか	48.5	55.9	57.9
⑩	理科の勉強は得意ですか	47.0	47.1	50.7
⑪	理科の勉強は好きですか	60.3	61.0	63.8
⑫	理科の授業の内容はよく分かりますか	65.7	71.2	70.4
⑬	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	61.5	62.8	63.4
⑭	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	21.4	21.3	21.7
⑮	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか	54.5	54.7	54.7
⑯	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	88.5	82.6	79.5
⑰	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	91.6	91.2	91.5
⑱	解答時間は十分でしたか(国語) ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	62.8	71.8	67.8
⑳	解答時間は十分でしたか(数学) ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	66.0	77.6	73.2

主な特徴と考察	<p>多くの生徒が、学ぶことの大切さを理解し、意欲をもって学習に取り組んでいる実態がうかがえる。特に、各教科の「授業の内容はよく分かりますか」といった設問では、全国・県と同程度、あるいはそれを上回る項目も見られ、各教科において授業改善が一定程度すすんでいることが推察される。</p> <p>一方で、「授業で学習したことを普段の生活の中で活用できているか」や「将来、社会に出たときに役に立つと思うか」といった設問では、全国・県と比較してやや低い値となっている項目が見られる。学習内容と実生活や将来とのつながりを実感しにくい状況があることが考えられる。</p> <p>また、「総合的な学習の時間で、自分で課題を立て、情報を集め、整理し、発表する学習活動に取り組んでいるか」といった探究的な学びに関する設問では、全国・県を上回る結果が見られた。町として推進してきた探究的な学びが各校で定着しつつあることの表れと考えることができる。今後は、こうした探究的な学びの成果を各教科の授業にも活かし、生活や社会と結び付けて考える力の育成を一層図って行くことが求められる。</p>
---------	---

イ 挑戦心・自己有用感・幸福感等について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	自分には、よいところがあると思いますか	86.3	85.7	86.2
②	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	92.7	92.2	92.2
③	将来の夢や目標を持っていますか	69.1	66.2	67.0
④	人が困っているときは、進んで助けていますか	89.7	90.4	90.9
⑤	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	95.0	95.0	95.9
⑥	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	69.1	71.7	73.2
⑦	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.0	96.4	96.6
⑧	学校に行くのは楽しいと思いますか	84.3	86.5	86.1
⑨	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	76.7	79.4	79.2
⑩	友達関係に満足していますか	90.5	90.7	90.4
⑪	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか (「よくある」「ときどきある」と回答した割合)	92.0	91.6	91.6
⑫	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	80.9	77.9	77.5
⑬	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	74.9	73.7	75.3
⑭	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	81.3	72.7	73.0
⑮	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	83.6	79.9	77.7
⑯	1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	79.4	73.4	70.6
⑰	1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	78.2	78.7	79.3
⑱	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	85.2	84.5	84.7
⑲	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	75.9	73.9	73.4
⑳	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	73.6	73.5	74.8
㉑	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	91.2	92.6	91.9

主な特徴と考察	<p>自己肯定感や規範意識、他者との関わりに関する設問では、全国・県と概ね同程度の値を示しており、多くの生徒が安定した人間関係の中で学校生活を送っている様子がうかがえる。「自分にはよいところがあると思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」といった幸福感や自己有用感に関わる設問についても、小学校段階と同様に比較的高い傾向が見られる。</p> <p>また、「学級の生徒との話し合いを通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができているか」や、「自分の考えが伝わるよう工夫して発表しているか」といった設問では、全国・県と同程度、あるいはそれを上回る結果が見られ、表現活動や話し合い活動を重視してきた授業づくりの成果が表れていると考えられる。</p> <p>一方で、学んだことを活かして自分なりに考え、行動に移していく力については、今後さらに伸ばしていく余地がある。引き続き、挑戦する過程を大切にし、生徒が自らの考えを実生活や将来の選択につなげられる学びの充実が求められる。</p>
---------	--

ウ ICTを活用した学習状況等について

(百分率)

質問紙より抽出		中学校			
		葉山町	神奈川県	全国	
①a	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」「ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業）」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合の合計	98.5	98.2	97.5	
①b	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」「ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業）」と回答した割合の合計	91.6	58.0	53.2	
②	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って、次のことができると思いますか。	(1) 文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができる	89.3	85.4	83.6
		(2) 情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができる	95.0	92.0	91.5
		(3) 情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる	76.7	65.7	63.3
		(4) 学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる	85.2	78.7	76.6
③	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊び目的除く） ※「1時間以上」と回答した割合の合計	11.1	14.5	13.7	

主な特徴と考察	<p>一人一台端末の導入以降、授業においてICT機器を活用する場面が日常的に見られるようになっており、「授業でPC・タブレットなどのICT機器を使用したか」に関する設問では、全国・県と比べて高い値を示している。ICTを授業の中で活用する取組が、各校で定着してきていることがうかがえる。</p> <p>また、「ICT機器を使って、情報を整理したり、自分の考えをまとめたりできると思うか」といった設問でも、全国・県平均を大きく上回る結果となっており、ICTを活用した情報整理や思考のまとめに対する生徒の自己評価が高いことが分かる。これは、授業の中で図・表・スライド等を用いて、考えを整理・表現する活動を重ねてきた成果と考えられる。</p> <p>一方で、学校外でのICT機器の学習利用の関する設問では高い値とは言えず、家庭学習におけるICT活用が十分に定着しているとは言い難い状況が見られる。今後は、端末の持ち帰りやAIドリルの活用等を通して、生徒が主体的にICTを活用して学習に取り組めるよう支援していくことが求められる。</p>
---------	--

エ 学校外での過ごし方について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	朝食を毎日食べていますか	91.2	90.0	91.2
②	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	77.5	76.7	81.0
③	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	89.7	88.6	92.6
④	学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ※「1時間以上」と回答した割合(学習塾・家庭教師・オンライン学習も含む)	56.8	70.2	61.6
⑤	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ※「1時間以上」と回答した割合(学習塾・家庭教師・オンライン学習も含む)	61.1	61.8	57.9
⑥	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く) ※「30分以上」と回答した割合	27.5	20.7	21.4
⑦	これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか。 ※「よくしていた」「ときどきしていた」と回答した割合	88.5	76.1	75.7
⑧	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事は除く) ※「よくある」「ときどきある」と回答した割合	38.5	28.8	29.5

主な特徴と 考察	<p>朝食の摂取や睡眠に関するもの等、基本的な生活習慣に関する設問では、全国・県と概ね同程度の状況が見られる。生活リズムの安定は、学習や心身の健康とも深く関わることから、学校と家庭が連携し、規則正しい生活習慣の大切さについて継続的に働きかけていく必要がある。</p> <p>また、自然の中での遊びや自然観察に関する設問では、全国・県を大きく上回る結果が見られ、生徒が地域の環境に親しみながら豊かな体験を積むことができている様子がうかがえる。</p> <p>さらに、地域の大人との関わりに関する設問においても、全国・県と比べて高い値を示しており、地域の人材や環境を活かした体験的な活動が、生徒の成長に寄与していることが推測される。今後も、家庭・地域と連携しながら、学校外での体験を学校の学びにつなげていくことが期待される。</p>
-------------	--

4 葉山町教育ビジョンに基づく学力向上に向けた葉山町の方向性

葉山町教育ビジョンに基づき、主に次の5点について取組を推進します。

(1) 小中一貫教育の推進

各教科と関連した総合的な学習の時間で9年間をつなぎ、自ら考えて行動する力を探究的な学びで育みます。
「知能及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱にそって教科ごとの目標を設定し、9年間を見通した合理性のあるカリキュラムを構築します。

【関連施策】

- 小中一貫教育の推進
- 教科担任制の推進
- かながわ学びづくり推進事業

(2) 認知能力・非認知能力の育成

連携協力に関する協定を締結している大学の非認知能力やウェルビーイングに関する国際的な研究機関から一部助力を得ながら、各校で実施している学校評価（非認知能力の測定）の方法について助言を受けることによって、認知能力とともに非認知能力の向上を目指します。

※認知能力：読む・書く・計算するなど、テストの点数や成績に表れやすい力
非認知能力：学習意欲や粘り強さなど、テスト等では測りにくい力

【関連施策】

- 東京学芸大学との連携協定

(3) 専門家や指導主事による伴走の充実

探究的な学び・支援教育・外国語教育・ICT教育といった、これからの葉山の学びの柱となる分野で、指導主事及び教員等がより専門的で実践的な助言が受けられるよう「楽校教育推進アドバイザー」制度の充実を図ります。

教員一人ひとりの学びに関する好奇心を原動力に、様々なアイデアを教育施策へ反映したり、学校内や他校への横展開を図ったりするため、実務者で構成する「教育委員会・学校プラットフォーム」を運営します。

指導主事及び教員等で、今日的な教育課題に先進的に取り組んでいる地域や学校を視察し、その結果を楽校改革戦略会議や教育委員会への報告する機会を設けることによって、学びの変革を実現する教員の育成を進めます。

【関連施策】

- 葉山町楽校改革推進アドバイザー制度
- 教育委員会・学校プラットフォーム
- 先進地視察事業

※教育委員会・学校プラットフォーム：教育委員会と学校とが連携し、子どもたちの学びや育ちをともに考え支えるための基盤となる組織

(4) アセスメントに基づく個に応じた支援策の確立

町として支援の進む方向を示し、関係者の目線を合わせ、取組を常に見える化させるため、支援教育推進指針を改定するとともに、一人ひとりの特性や、得意・不得意、関心事項等を客観的に評価・分析し、児童生徒に対する支援体制の充実を図ります。

個別最適な学びの場の保障のため、支援が必要とされる児童生徒の個別の支援計画・指導計画の内容を充実させるとともに、その対象を、通常級における支援が必要な児童生徒へ拡大します。

【関連施策】

- 校内教育支援センターの充実
- 支援教育ソフト「LITALICO」の活用

(5) ICTの効果的な活用

AIドリル、体育等の場面で映像をもとに協働して課題解決するためのICTツール、世界中で活躍する大人たちの映像から多様な生き方や価値観に触れることができるICTプログラムなど、ICTを活用した学びをより活性化させます。

【関連施策】

- AIドリル
- 教育ICTサービスの活用